



フィリップ・アルヴィッドソン

滞在期間: 2009年6月～7月

国籍: スウェーデン

所属: グバンジェンス合気道クラブ

フィリップは所沢道場に内弟子として一ヶ月住み込みました。滞在中、道場の中と外両方で、さまざまな体験をしたようです。

私の内弟子体験 フィリップ・アルヴィッドソン

一九九九年に私が合気道を始めて以来、私はいつも日本に行き、本場の合気道を体験したいと思っていました。

そして十年が経ちその夢が現実のものとなりました。私の所属するストックホルムのグバンジェンス合気道クラブは長い間私を助けてくれていましたが、今回さらに私が一カ月間小林道場の内弟子を体験する事を可能にしてくれました。

私が最初所沢についた時、弘明先生と二人の内弟子、篠崎さんと林さん、と一緒に昼食をとりました。どうやら受け入れて貰ったようでした。長いフライトで疲れてはいましたが、その日の最初の夜の稽古はすべてが新しい経験で少々混乱もしましたが、とても素晴らしく、心に残る滞在が出来る予感がしました。

日本に来る以前は、ストックホルムの弥栄道場で行われる小林道場長や弘明副道場長の講習会に参加していました。今回はその先生方の道場での内弟子です。日本で合気道を稽古することや日本の生活を体験することは驚きの連続です。私は旅行者の目ではなく、合気道を修行する者の目で東京を見る事が出来ました。稽古以外でも小林道場では出会った方々と様々な事を経験しました。矢野さんの家に食事に招待して頂いたり、ディランのバーベキューパーティーでハンバーグを食べたり、香穂ちゃんの誕生パーティーでカラオケを歌ったり、まだまだありますが・・・。

勿論それだけではなく様々な所を観光しました。東京以外にも、電車で日光に行き、寺社を観光したり登山をしたりしました。私のカメラの撮影枚数は2千枚に達しました。もし私の記憶が曖昧になったとしても、私のカメラが助けてくれるでしょう。帰国してから私の友達に写真を見せるつもりです。





内弟子生活では時には朝の掃除のため数時間の睡眠しかとれず、起きるのが非常にきつかったり、場合によっては休みをもらう事もありました。しかし勿論これは珍しい事です。稽古の時はたとえ発熱や疲れで笑顔が表に出なくても、心の中は笑顔にあふれていました。このような機会が持てた事は本当に信じがたい出来事です。

今回の滞在で私が最も勉強になった事は、私たちが今まで日々やってきた合気道の基本が変わってきたという事です。勿論私の合気道は今も進歩していますし、時とともにこれからも進歩していくでしょう。私は明言しますが、この内弟子経験は合気道に関してのみならず、私の中の多くのものを変えてくれました。この思い出は生涯忘れません。

小林先生、弘明先生、小柳先生、笠原先生、小峯先生、鈴木先生、他にも多くの事を教えて下さいました先生方、また一緒に稽古をして頂いた方々本当にありがとうございました。また私を日本に送り出してくれた私の道場の人たち、私を内弟子に推薦してくれた弥栄道場のウルバン・アルデンクリント先生にも感謝の意を称したいと思います。

